

萩市子ども議会 会議録



令和5年11月18日 開会
令和5年11月18日 閉会

主催 一般社団法人 萩青年会議所
共催 萩市、萩市教育委員会
後援 萩市議会

萩市子ども議会 会議録

◆日 時

令和5年11月18日(土) 10時00分～14時30分

◆場 所

萩市議会議場

◆参加者

子ども議員 15人

- | | | |
|------------|----------|------------------|
| ・ 議席番号 1番 | 萩東中学校 | 伊藤 空 |
| ・ 議席番号 2番 | 萩東中学校 | 國光 健太 |
| ・ 議席番号 3番 | 萩東中学校 | 中島 有咲 |
| ・ 議席番号 4番 | 萩東中学校 | 山本 真菜 |
| ・ 議席番号 5番 | 大井中学校 | 神川 汐香 |
| ・ 議席番号 6番 | 大井中学校 | 白上 拓実 |
| ・ 議席番号 7番 | 大井中学校 | 田中 優成 |
| ・ 議席番号 9番 | 見島中学校 | 和木 隆太朗 (オンライン参加) |
| ・ 議席番号 10番 | 萩西中学校 | 刀祢 湊 |
| ・ 議席番号 11番 | 萩西中学校 | 松嶋 波 |
| ・ 議席番号 12番 | 萩西中学校 | 山野井 彩純 |
| ・ 議席番号 13番 | 萩光塩学院中学校 | 中村 暖 |
| ・ 議席番号 14番 | 萩光塩学院中学校 | 吉井 八重 |
| ・ 議席番号 19番 | 三見中学校 | 上田 愛実 |
| ・ 議席番号 20番 | 三見中学校 | 上田 実侑 |

見学者 5人

- | | | |
|------------|----------|--------|
| ・ 議席番号 8番 | 大井中学校 | 出口 美理 |
| ・ 議席番号 15番 | 萩光塩学院中学校 | 杉本 結菜 |
| ・ 議席番号 16番 | 萩光塩学院中学校 | 田島 璃子 |
| ・ 議席番号 17番 | 萩光塩学院中学校 | 橋本 悠那 |
| ・ 議席番号 18番 | 萩光塩学院中学校 | 山下 奈月妃 |

萩市 25人

- | | | | |
|-----------|--------|-------------|--------|
| ・ 萩市長 | 田中 文夫 | ・ 土木建築部長 | 吉屋 満 |
| ・ 萩市副市長 | 柴田 一郎 | ・ 教育委員会事務局長 | 植村 正 |
| ・ 萩市教育長 | 池田 廣司 | ・ 消防本部消防長 | 礪部 誠 |
| ・ 萩市議会議長 | 長岡 肇太郎 | ・ 市民病院事務部長 | 古谷 勝義 |
| ・ 萩市議会副議長 | 石飛 孝道 | ・ 会計管理者 | 吉岡 克子 |
| ・ 総務部長 | 齋藤 英樹 | ・ 企画政策課長 | 江村 友成 |
| ・ 総合政策部長 | 肌野 次雄 | ・ 企画政策課長補佐 | 谷野 芳之 |
| ・ 市民部長 | 細井 充 | ・ 企画政策課長補佐 | 寺口 栄子 |
| ・ 福祉部長 | 松原 功明 | ・ 議会事務局長 | 須郷 誠 |
| ・ 保健部長 | 廣石 泰則 | ・ 議会事務局係長 | 藤原 留美 |
| ・ 農林水産部長 | 白神 敦司 | ・ 議会事務局係長 | 横山 晋太郎 |
| ・ 商工観光部長 | 村田 卓二 | ・ 議会事務局主任 | 時 健太郎 |
| ・ 上下水道局長 | 中屋 英典 | | |

萩青年会議所 20人

- ・ 理事長 小林 富
- ・ 専務理事 田村 源基
- ・ 直前理事長 森田 大介
- ・ 監事 井上 雅之
- ・ 副理事長 松村 勇希
- ・ 外部監事 江山 普郎
- ・ 副理事長 永安 亮一

(子どもの未来創造委員会)

- ・ 委員長 鬼村 祐輔
- ・ 委員 笹村 直也
- ・ 副委員長 武者 耕平
- ・ 委員 守田 晋二
- ・ 委員 小祝 琢誠
- ・ 委員 藤井 航平

(総務広報委員会)

- ・ 委員長 山本 舞
- ・ 委員 中村 后咲
- ・ 副委員長 松原 将悟

(地域の未来創造委員会)

- ・ 委員長 増山 毅
- ・ 委員 林 静江
- ・ 副委員長 阿武 択磨
- ・ 委員 上村 萌那

◆日程

- ・ 子ども議員・見学者入場
- ・ 理事長 挨拶 (一社) 萩青年会議所 理事長 小林 富
- ・ 市長 挨拶 萩市長 田中 文夫
- ・ 執行部 紹介
- ・ 萩市民憲章 唱和 萩市議会 副議長 石飛 孝道
- ・ 萩市子ども議会宣言 子ども議員 代表 上田 愛実 議員
- ・ 開 会 上田 実侑 議員
- ・ 一 般 質 問 子ども議員 代表 松嶋 波 議員
- ・ 閉 会 山野井 彩純 議員
- ・ 回 答 書 受 渡 萩市長 田中 文夫
- ・ 講 評 子ども議員 代表 刀裯 湊 議員
- ・ 理 事 長 謝 辞 萩市長 田中 文夫
- ・ 記 念 撮 影 萩市教育長 池田 廣司
- ・ (一社) 萩青年会議所 理事長 小林 富

◆質問順序

1. 議席番号 1 番 伊藤 空
2. 議席番号 1 9 番 上田 愛実
3. 議席番号 2 0 番 上田 実侑
4. 議席番号 9 番 和木 隆太郎
5. 議席番号 6 番 白上 拓実
6. 議席番号 5 番 神川 汐香
7. 議席番号 2 番 國光 健太
8. 議席番号 1 0 番 刀裯 湊
9. 議席番号 3 番 中島 有咲
10. 議席番号 1 3 番 中村 暖
11. 議席番号 1 1 番 松嶋 波
12. 議席番号 1 2 番 山野井 彩純
13. 議席番号 4 番 山本 真菜
14. 議席番号 7 番 田中 優成
15. 議席番号 1 4 番 吉井 八重

【午前10時00分 「子ども議員」・「見学者」入場】

○鬼村委員長

議場内の皆様にお知らせいたします。これより、子ども議員と見学者の皆さんが入場されます。皆様ご起立のうえ、盛大な拍手でお迎えください。

議席番号1番 萩東中学校2年生 伊藤 空 議員
議席番号2番 萩東中学校2年生 國光 健太 議員
議席番号3番 萩東中学校2年生 中島 有咲 議員
議席番号4番 萩東中学校2年生 山本 真菜 議員
議席番号5番 大井中学校2年生 神川 汐香 議員
議席番号6番 大井中学校2年生 白上 拓実 議員
議席番号7番 大井中学校2年生 田中 優成 議員
議席番号9番 見島中学校3年生 和木 隆太郎 議員

なお、和木議員は本日悪天候のため、見島からオンラインでの参加となります。

議席番号10番 萩西中学校2年生 刀祢 湊 議員
議席番号11番 萩西中学校2年生 松嶋 波 議員
議席番号12番 萩西中学校2年生 山野井 彩純 議員
議席番号13番 萩光塩学院中学校2年生 中村 暖 議員
議席番号14番 萩光塩学院中学校2年生 吉井 八重 議員
議席番号19番 三見中学校2年生 上田 愛実 議員
議席番号20番 三見中学校2年生 上田 実侑 議員

これより見学者のご紹介となります。

議席番号8番 大井中学校2年生 出口 美理さん
議席番号15番 萩光塩学院中学校2年生 杉本 結菜さん
議席番号16番 萩光塩学院中学校2年生 田島 璃子さん
議席番号17番 萩光塩学院中学校2年生 橋本 悠那さん
議席番号18番 萩光塩学院中学校2年生 山下 奈月妃さん

【午前10時05分 「萩市子ども議会」開催】

○鬼村委員長

只今より、萩市子ども議会を開催します。一同、礼。ご着席ください。開催にあたり、主催者である一般社団法人 萩青年会議所を代表して、小林理事長より、挨拶をいただきます。小林理事長お願いします。

○小林理事長

皆さんおはようございます。この度、萩市の初の開催となります、萩市子ども議会を主催しております、一般社団法人 萩青年会議所の小林富と申します。本日はどうぞ宜しくお願いします。

今回の初開催となりますこの子ども議会は、ほかの自治体同様に人口減少や少子化など、それら課題を抱えつつも皆さんのご存じのように、様々な地域の資源や魅力にあふれた萩市をどうやればもっと活性化できるか、それをぜひ若い力、若いアイデアがいただきたいということで企画をさせていただきました。本日登壇いただく議員各位におかれましては、是非地域を、そして世代を代表して堂々と発表していただければと思います。また、今回の初開催にあたりまして学校関係者各位の皆様、そして保護者の皆様にご協力なくしてこの事業はできませんでした。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

また、今回の事業は、私たち萩青年会議所だけではなく、萩市、ならびに萩市教育委員会の共催、萩市議会の後援をいただくことで開催ができました。こちらも併せて御礼申し上げます。

この議場で発表するというのは皆さんもそうでしょうし、大人の人たちも緊張します。言葉が詰まっても、緊張してもかまいません。ぜひ大きな声で発表をしていただきたいと思います。至誠にして動かざる者、未だこれ有らざるなり。この萩市の吉田松陰先生がおっしゃった言葉です。緊張しても、多少言い間違いをしてもかまいません。誠の心をもってあたれば、動かないことはないです。ぜひ皆さんが思っているアイデアを堂々と大きな声で発表してください。主催者を代表してのあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○鬼村委員長

ありがとうございました。続いて、田中市長よりごあいさつをいただきます。

○田中市長

皆さんおはようございます。ただいまご紹介をいただきました萩市長の田中文夫でございます。萩市子ども議会の開催にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は萩市で初の開催となります萩市子ども議会に15名の子ども議員の皆さんをはじめ、多くの方々にご参加をいただき、ありがとうございました。また、今この場から子ども議員の皆さんの顔を見ますと少し緊張しているように見えます。いや、していると思います。私も緊張しております。いつもと違うなあという感じでございます。

また、同時にですね、先ほどのリハーサルもちょっと見させていただきましたが、大変意気込みも強く感じているところです。私も萩市長としてですね、頼もしく思うと同時にこれから始まる議会を大変楽しみにいたしているところでございます。

また、本日は子ども議員の皆さんが考えた理想の萩市を実現するためのアイデアを、ご提案いただきますけれども、どうぞ自信をもってしっかりと発信をしていただければと思います。私たちも皆様方のアイデアに対して精いっぱいお答えさせていただき、皆さんの自由で柔軟な発想力を市政に生かしていきたいと考えております。

そして、子ども議員の皆さんには、これからも市政に対する関心を持ち続け、将来は皆さんがより良い萩市を築くために活躍してくれることを期待しているところでございます。また、小林富理事長をはじめ萩青年会議所の皆様におかれましては、素晴らしいイベントを主宰いただき、本当にありがとうございます。子どもたちが市政に関心を持ち、その未来を切り開いていくために、このような機会を提供していただけることは大変有意義なことでもあります。萩青年会議所の皆様のご尽力に感謝を申し上げますとともに、今後も市政の更なる発展と子供たちの輝かしい未来のためにご高配を賜りますようお願いをいたします。

終わりに、本日の子ども議会が子ども議員の皆さんにとって素晴らしい経験となり、そして子供たちの力強い声が萩市の未来をより明るくするものとなりますよう、祈念いたしまして、私からのご挨拶といたします。今日はどうぞよろしく願いをいたします。

【午前10時11分 「市執行部並びに萩市議会議員の紹介」】

○鬼村委員長

続きまして、本日出席いただきました市執行部並びに萩市議会議員の皆様をご紹介します。

萩市長 田中文夫 様、副市長 柴田一郎 様、萩市教育長 池田廣司 様、そして総務部長 齋藤英樹 様をはじめとした幹部職員の方々が揃っています。

続いて、萩市議会議員の方々が揃っています。萩市議会議長 長岡肇太郎 様、萩市議会副議長 石飛孝道 様。

また、申し遅れましたが、私、萩市子ども議会開催事業を担当させていただいている、萩青年会議所 子どもの未来創造委員会 委員長の鬼村と申します。そして、小林理事長をはじめとする萩青年会議所の会員です。本日は、どうぞ宜しくお願いいたします。

【午前10時13分 「萩市民憲章」唱和】

○鬼村委員長

それでは、萩市子ども議会の開会に先立ち、市民憲章の唱和を行います。皆様、ご起立をお願いいたします。

萩市民憲章の唱和は、萩市議会 副議長 石飛 孝道議員と、子ども議員を代表し、議席番号19番 上田愛実議員と議席番号20番 上田実侑議員にお願いします。3名の方は登壇をお願いします。

○石飛副議長

皆さんおはようございます。それでは、これより萩市民憲章の唱和を行います。萩市民憲章はお手元に配布しておりますのでご覧ください。私と上田 愛実議員と上田 実侑議員が前文を読み上げ、「ひとつ」と申しますので、その後、本文を一緒にご唱和ください。

○石飛副議長、上田 愛実 議員、上田 実侑 議員

萩市民憲章

わたくしたちは、明治維新胎動の地、萩の市民です。この誇るべき歴史と美しい自然が織りなすふるさとを愛し、心のよりどころとなる、あたたかいまちをめざして、この憲章を定めます。

- 一 先人の志と勇気に学び歴史と文化を大切にすまちなちをつくりましょう
- 一 青い海と緑の山を守り詩情豊かなまちなちをつくりましょう
- 一 健やかなこころを育み笑顔のあふれる明るいまちなちをつくりまし

よう

- 一 互いに助けあい安心して暮らせる平和なまちをつくりましょう
- 一 進取の気風を受け継ぎ未来に向かって発展するまちをつくりましょう

○鬼村委員長

皆さまありがとうございました。ご着席ください。

【午前10時16分 「萩市子ども議会宣言」】

○鬼村委員長

次に、萩市子ども議会宣言を行います。萩市子ども議会宣言は、子ども議員の皆さんが、萩市の子どもを代表し、明るい豊かな萩市を目指して、「萩市子ども議会」の場で、理想の萩市を実現するためのアイデアを発表することを、宣言していただきます。皆様、ご起立をお願いいたします。子ども議員を代表して、議席番号11番松嶋議員と議席番号12番 山野井議員、登壇をお願いいたします。

○松嶋議員、山野井議員

萩市子ども議会宣言

私達は、“理想の萩市”の実現を目指して、萩市の中学校を代表し、今日ここに集いました。私達は、萩市で生まれ育ったことを誇りに思い、萩市に明るい未来が訪れるように、願いを込めて、提言していくことを、ここに宣言します。令和5年11月18日、子ども議員代表 松嶋 波、山野井 彩純

○鬼村委員長

松嶋議員、山野井議員ありがとうございました。皆さんご着席ください。

【午前10時19分 「萩市子ども議会」議長の選任】

○鬼村委員長

続きまして、萩市子ども議会議長の選任を行います。本来、議長は選挙により決定いたしますが、萩市子ども議会は子ども議員の提言を主な目的とするため、本日は萩市議会 長岡 肇太郎議長にお願いしております。それでは、「萩市子ども議会」を開会するにあたり、長岡議長、進行をお願いいたします。

【午前10時20分 「萩市子ども議会」開会】

○長岡議長

ただいまご紹介を受けました、議長を務めます萩市議会議長の長岡 肇太郎です。よろしくお願いいたします。それでは、ただいまより「萩市子ども議会」を開会いたします。

【午前10時20分 一般質問】

○長岡議長

これより一般質問を行います。萩市子ども議会における一般質問は、子ども議員の皆さんが考える「理想の萩市にするためのアイデア」を発表いただきます。

今回の一般質問は、15名の子ども議員より通告があり、発言の順序は、お手元に配布のとおり決定しています。

なお、一般質問および答弁は1人1回とし、再質問は行いません。それでは、順次一般質問を行います。

一般質問1人目：議席番号1番 伊藤 空 議員

○長岡議長

議席番号1番 伊藤議員。

○伊藤議員

萩東中学校 2年生の伊藤空です。

自分が思う理想の萩市は「地域の人たちの仲が良く、元気なあいさつがたえない萩市」です。

そう考えた理由は、あいさつは人と人との関わりの1つだと思うので、地域の人たちの仲が良いという所にもつながると思ったからです。でも、今の現状は、地域活動などはやっていたり、やっていなかったりと、地域によって異なっています。そして、あいさつに関しては僕の印象ですが、あいさつをする大人の人が減っていると感じました。

今、話したことを踏まえて萩市で行ったほうが良いと思う事は、地域での交流会や日付を決めた、あいさつ運動です。地域での交流会については、30代～40代といった親世代を中心に開いて、今困っている事や悩み事などを話してもらえる場にしてもらいたいと思っています。

あいさつ運動については、月に1回行い、日付は1日～7日の1週間にしたら良いと思います。

これらの事が実現したら、この萩市がもっと笑顔であふれて、みんなが気持ちの良い萩市になると思うので、僕の理想の萩市を実現してほしいです。

○田中市長

伊藤空議員の質問にお答えいたします。伊藤空議員から、「地域の人たちの仲がよく、元気なあいさつが絶えない萩市」の実現に向けて、ご提案をいただきました。

地域の人たちの交流会について

まず「地域の人たちの交流会について」であります。

私も「明るく元気な萩市」の実現を目指しております。住民の皆さんの活発な交流は、まさに、萩市の元気そのものであると考えており、伊藤空議員のご提案に賛成であります。

伊藤空議員からご提案のありました、地域の人たちの交流会は、住民の皆さんの身近にあり、多くの方が加入されている町内会や自治会での開催が良いのではないかと考えております。

この町内会等は、住民の皆さんによって自主的に運営されている一番身近な自治組織で、自分たちの地区をより良くするため、住民相互の親睦や清掃、防犯、防災といった様々な活動をされています。

従いまして、その活動は、それぞれの町内会等で決定されますことから、萩市といたしましては、町内会を対象とした研修会の場などを通じて、伊藤空議員の思いを添え、特に若い世代の交流会の開催について、ご提案させていただこうと思っております。

なお、萩市では、町内会等の活動を積極的に行っていただくため、地域の皆さんが集まる集会所の建設や、地域活動に必要な備品等の整備、活動費など、様々な支援を行っております。

各地区で、お祭りや清掃活動などの行事に多くの方が参加され、挨拶や会話が賑やかに聞こえてくる「明るく元気な萩市」を目指し、今後も住民相互の交流が進むように取り組んでまいります。

あいさつ運動の実施について

次に「あいさつ運動について」であります。先日、39社のIT企業の方々が、萩・明倫学舎に視察に来られた際、すれ違う明倫小学校の子どもたちが、元気よく「こんにちは」と、次々と挨拶をいたしました。企業の皆さんは「こんなに挨拶する子どもたちは、全国でもないだろうと。萩の子どもたちは、すばらしい。」と絶賛をされました。私も誇らしく感じたところでございます。

私も「明るく元気な萩市」の第一歩として、元気の良い挨拶を心がけているところですが、伊藤空議員から大人の挨拶が減っているのご指摘を受け、恥ずかしく思っているところです。

挨拶に関する萩市の取組につきましては、全国的にも展開されております「おはようございます」、「ありがとうございます」、「しつれいします」、「すみません」の頭文字をとった「オアシス運動」を推進しております。

この運動は、各地区、各学校を中心に、それぞれ取り組まれておりますが、地域や学校、職場等のあらゆる場面において、大人や子ども関係なく、全ての世代が挨拶を交わすことで、挨拶の浸透が図られ、明るく元気なまちづくりにつながります。

こうした取組に加えまして、ご提案いただきました萩市全体での統一的な挨拶運動にも、取り組んでみたいと考えております。伊藤空議員からは、毎月の開催についてご提案をいただきましたが、毎年、春・夏・秋・冬に、それぞれ期間を定めて行う交通安全運動と併せての実施が、効果的ではないかと考えております。交通安全運動の期間中は、多くの方が、市内各所で立哨され、挨拶をする機会が多いこと、また、交通安全運動に参加される方も、通行される方も、それぞれが積極的に挨拶を交わすことで、お互いが明るい気持ちになり、挨拶の輪が広がりやすいのではないかと考えるところです。また、児童・生徒の皆さんの登下校時に立哨活動をされておられる「見守り隊」の皆さんは、いつも元気よく挨拶されておられます。

こうした気持ちの良い挨拶を交わすことで、挨拶の輪が広がっていくものと考えますので、日常の様々な場面においても、積極的な挨拶を促してまいります。私も、これまで以上に率先して元気良く挨拶するとともに、市役所の窓口におきましても、笑顔でさわやかな挨拶を実践してまいりますので、皆さんも、ぜひ、元気良く、挨拶いただき、一緒になって挨拶の輪を広げていきましょう。

○伊藤議員

僕のアイデアに対して、萩市の意見が聞けたので良かったです。ありがとうございました。

○長岡議長

以上で、伊藤議員の質問は終わりました。

一般質問 2 人目：議席番号 19 番 上田 愛実 議員

○長岡議長

続いて、議席番号 19 番 上田愛実議員。

○上田愛実議員

萩市立三見中学校の 2 年、上田愛実です。

萩市をもっと活性化するために、精一杯努力しますので、よろしくをお願いします。

私が考える理想の萩市は、たくさんの観光客に来てもらい、経済を活性化させる萩市です。経済が活性化すると、その収入で市民へ色々な支援ができるのではないかと思います。子育て世帯への支援や医療の充実など、市民に寄り添ったことができると思います。

こう考えた理由は、現在萩市は人口が少なくなっているのも、たくさんの観光客に来てもらうことで、経済をもっと活性化すると思ったからです。

萩市は、現在、人口がとても減っています。少子高齢化で子どもの数が減ってきたり、私の住んでいる三見でも、空き家が多くなったりしています。なので、市外、県外、外国からも、たくさんの観光客に来てもらい、萩はいいところだな、そう思ってもらい移住してもらえればいいなと思っています。しかし、萩市は、歴史ある観光地ではありますが、それだけでは観光客を増やすのは、これから難しいと思います。そこで、宿泊施設など、「ここに泊まってみたい」と思うような施設を作ったらいいと思います。

具体的には 2 つあり、1 つ目は、現在使われていない狐島にある萩短期大学の跡地を利用し、宿泊施設をつくったらいいと思います。温泉の充実、どの部屋からも海が見える施設、お客さんが釣った魚を調理して提供してくれる、そんなお客さんが喜ぶようなサービスをしてあげるといいと思います。

2 つ目は、羽島全体をリゾート地にすればいいと思います。羽島は、以前キャンプ場として利用されており、整備するのが安価で済みます。グランピングやマリンスポーツなど、自然をいかし、お客さんが楽しめる施設をつくればいいと思います。

このような施設をつくれば、市内外などから「ここで働きたい」と萩に定住する人が増え、観光客の増加、雇用による萩市民の増加が見込まれるのではないかと思います。それに、地産地消で萩市の農業や漁業などの生産者も活気がでるのではないかと思います。萩市をもっと活性化できるように頑張ります。

○田中市長

上田愛実議員から、「たくさんの観光客に来てもらい、経済を活性化させる萩市」の実現に向けて、ご提案をいただきました。

魅力ある施設を建設することが、雇用につながり、経済を活性化させることについて

上田愛実議員ご紹介のとおり、萩市の人口は減少傾向にございます。令和5年10月末時点の萩市の人口は、42,870人で、上田愛実議員が生まれた平成21年の同時点と比べますと、約13,000人減少しております。

こうした状況にあることから、萩市では、人口減少を最も重要な課題と捉え、減少に歯止めをかけるため、様々な施策を展開しているところでもあります。

移住情報を発信するサイトの一つでは、2021年の最も人気の移住地域として、萩市が全国第1位を獲得し、萩市への興味が非常に高くなっているところでもあります。また、去年は、萩・明倫学舎4号館に移住希望者の総合相談窓口として、「はぎポルト - 暮らしの案内所 -」をオープンいたしました。「ポルト」とは、イタリア語で「港」という意味であります。萩へ移住したい人や、萩と関わりたい人と、地域を結ぶ交流の場となり、皆さんが戻ってきたい場所となるよう、願いを込めて名付けたものです。さらに、市外の方に地域活動に従事いただきながら、萩市への移住・定住を促す「地域おこし協力隊」にも取り組んでおり、古民家を改修し、宿泊施設やカフェなどを作られ、頑張っておられる方もいらっしゃいます。こういった成果もあり、令和4年度は、51世帯79人の方が萩市へ移住されております。

上田愛実議員から、魅力ある観光施設を整備することにより、雇用の場が多くなり、定住者が増えるのではないかとのご意見をいただきました。観光は、裾野の広い産業と言われます。例えば、宿泊施設、お土産屋さん、観光施設など、観光客が直接利用される業種はもちろん影響を受けますが、食事を提供するためには農業や漁業関係の皆さんの協力が必要となります。また、施設が老朽化すれば建築業者の協力が、宿泊客のベッドのシーツを取り替えるためにはクリーニング業者の協力も必要となります。

こういった、一見、観光とは関係のなさそうな業種へも影響を与えるのが観光産業であります。観光産業が盛んになれば、直接的な観光事業だけでなく、付随する色々な事業が拡大し、地元の高校生、大学生はもちろんのこと、移住者の雇用の場にもなるものと考えております。

今回、狐島にある萩女子短期大学の跡地に宿泊施設を作ってはど

うか、羽島をリゾート地にしてはどうかと、2つの具体的な、ご提案を頂きました。四方を海で囲まれた部屋の中で、萩の美味しい食材を堪能できれば、萩で宿泊したいと思う方も増えることが期待されます。また、キャンプ場を運営していた時期もある羽島を、グランピングやマリンスポーツを楽しめるリゾート地とする、新たな自然観光も大変興味深いご提案であり、観光客の増加につながることも期待されます。

こういった宿泊施設や新たな観光地をつくるためには、民間事業者の斬新な発想や活力が必要であり、何より、整備するための資金が必要になってきます。

行政の立場でこういった取組ができるか、民間事業者と協力して、こういったことができるか、様々な視点から観光振興につながる手法を研究してまいります。

上田愛実議員のご意見も参考にしながら、萩市の活性化に努めてまいります。

○上田愛実議員

私が考えたアイデアで、少しでも萩市が活性化すればいいと思います。私ができることは少ないですが、萩市民の一人として少しでも努力していきたいと思います。ありがとうございました。

○長岡議長

以上で、上田愛実議員の質問は終わりました。

一般質問3人目：議席番号20番 上田実侑議員

○長岡議長

次に、議席番号20番 上田実侑議員。

○上田実侑議員

萩市立三見中学校2年、上田実侑です。よろしくお願いします。

私が考える理想の萩市は、市内の学校全てが同じ人数で学べる萩市です。そう考えた理由は、規模の大きい学校と小さい学校では、人との関わりやお互いの意見の交換などの差がうまれてしまうと思ったからです。

現状は、市内の中でも大人数と少人数学校で分かれていることです。私が通っている三見小中学校は、全校児童・生徒で28人という少人数学校です。部活動などで他校の生徒と関わることもあり、私の学校ではうまれなかった意見をたくさん聴いてきました。大人

数と少人数では、お互いの意見交換の差があると思います。

この問題点を少しでも解決するために、私が考えたアイデアは、人数が少ない学校は他の学校と合併することです。人数が少ない学校は、少しの意見しか聴くことができなけれど、多い学校だと少ない人数の学校よりは、たくさんの意見が聴けると思ったからです。合併ができなくても、月に1回は、ZOOMを使い他校と交流するなどすれば、自分たちが通っている学校以外の人たちの意見を聞くことができると思います。

2つ目は、他校との交流のときに全面的にサポートしてくれる担当課をつくることです。私が1年生の頃、漢字検定を受けようとしたのですが、参加人数が足りず受験する事ができませんでした。様々な検定をする際には、人数何人以上にならないと受験できないこともあり、以前は他校に行って一緒に受験する事もありました。ですが、親の送迎が必要で、受験したいけれど、無理な人もいます。なので、送迎など全面的にサポートしてくれる担当を作ってほしいです。

私は、大人数、少人数学校にはどちらも良いところがあると思います。ですが、友達の輪を広げ、自分以外の意見をたくさん聴いたりするには、大人数学校の方が良いと思います。少子化が進み、児童・生徒数が減っていますが、子ども達が同じ規模で学べる学校にしたいです。

○池田教育長

上田実侑議員から、「市内の学校全てが同じ人数で学べる萩市」の実現に向けて、ご提案をいただきました。

人数が少ない学校と他の学校の合併について

まず、「人数が少ない学校と他の学校との合併」についてでございます。上田実侑議員からお話がありましたように、人数が多いと、たくさんの意見を聞くことができ、よりよい解決方法を導き出すことも可能になります。

また、多様な考えにふれることにより、自分自身のものの見方や考え方を広げることにもつながります。友達の輪を広げ、多くの人と関わることは、人間として成長するうえで、とても大切なことです。これまでも、小さな学校どうしを統合して、少し大きな学校にするという事例もありましたが、萩市内には、今も、たくさんの小さな学校があります。そこには、「地域の学校を大切にしたい」という、地域や保護者の方々の願いがあるからであります。

学校は、子どもが成長するための場所であると同時に、地域の文化や歴史、産業を次の世代につなぐ大切な場所でもございます。学

校で、総合的な学習の時間を中心に、「地域のひと・もの・こと」を学んでおられると思いますが、まさに、その時間が、地域の文化や歴史、産業を受け継ぐことにつながっているのです。

また、地域に、子どもたちが元気に活動する姿があるということは、地域の方々の心を明るくし、地域に活力を与えてくれます。学校とそこに通う子どもたちは、地域にとって、かけがえのない宝物であります。

人数の少ない学校と他の学校の合併につきましては、子どもたちのより良い成長を考えながら、保護者の方や地域の方々の思いや考えを大事にして、進めていくことが大切だと考えております。

しかしながら、先ほども述べましたように、多くの人と関わり、成長することも、子どもたちにとって必要であります。

そこで、今、萩市教育委員会が進めているのは、ICTを活用した遠隔授業です。これは、Web会議システムを利用し、離れている学校どうしをつなぎ、合同授業を行う方法であります。昨年、この授業を受けた生徒からは、「多くの人と関わって学習ができ、有意義でした」という感想がございました。

今年度も、見島小学校と椿西小学校が、Web会議システムを利用し、萩駅前で行われる「萩イルミネフェスタ」に向けた、総合的な学習に取り組んでおります。

また、むつみ中学校と越ヶ浜中学校は、英語科の遠隔合同授業を通して、いつもの仲間とは異なる友達と、英語でやり取りをする学習を行っております。

それに加え、実際に人と出会い、ふれあうことも大切でございます。佐々並小学校と明木小学校では、日常の遠隔合同授業を実施するとともに、毎週木曜日に対面し、交流学習を行っております。

今後、学校をどのようにしていくのか、ということは、地域の在り方とも関わる、大変重要な課題でございます。教育委員会としましては、子ども、保護者、地域の方など、多くの人で知恵を出し合い、この課題をより良い方向に向けて解決していけるよう、学校と一緒に取り組んでまいります。

他校との交流のときに、全面的にサポートしてくれる担当課をつくることについて

続きまして、「全面的にサポートしてくれる担当課をつくる」についてであります。萩市教育委員会では、「萩市ひとづくり推進計画」に基づいて、子どもから大人までの教育に関する業務を行っております。

教育委員会の組織の中には、事務局がおかれ、教育政策課、学校教育課、文化・生涯学習課、スポーツ振興課の4課及び萩図書館が

あり、指導主事、事務職員などが教育に関わる仕事をしております。上田実侑議員のような中学生を、サポートする課は、学校教育課ですが、必要に応じて、市役所の他の部局や関係機関などと連携して、取り組んでおります。

萩の未来を支える子どもたちの誰もが、将来への夢と志を抱き、自ら学び、自らの可能性を信じ、未来へ向かって挑戦することができるよう、学校規模の大小はあっても、教育の水準を保つように、一層の充実を目指してまいります。

萩市教育委員会としましては、少人数クラスであっても、上田実侑議員のように、将来に向かって高い志をもち、人や社会と積極的に関わる子どもたちを育てるためにも、ICTを活用した遠隔教育や交流学习を充実させ、より良い学校生活を送れるよう、教育環境を整備してまいります。以上です。

○上田実侑議員

ありがとうございました。とても貴重な経験でした。

○長岡議長

以上で、上田実侑議員の質問は終わりました。

一般質問 4 人目：議席番号 9 番 和木 隆太郎 議員 (オンライン参加)

○長岡議長

続いて、議席番号 9 番 和木議員。

○和木議員

見島中学校 3 年、和木隆太郎です。よろしくお願ひします。

本日船が欠航したため、そちらに出席できませんでした。このような形で出席させていただき、本当にありがとうございました。それでは、質問させていただきます。

私が思う理想の萩市は、「少子高齢化のない、様々な人と共に暮らすことができ、風土を大切にす萩市」です。このように考えた理由は、現在、萩及び離島では少子高齢化が進んでおり、地域の維持や伝統文化などの継承が難しくなっている状況に思えるからです。私が住んでいる見島でも少子高齢化と、若者の減少によって、生活に密着する商業施設や各種団体の後継者不足となっています。また、島の伝統文化や伝統行事の存続も難しい状況です。

そこで、私は「萩市留学」を提案します。これは、ある期間を萩

で暮らし、その際に改修した空き家を利用します。さらに、萩市のデジタル通貨を発行し使ってもらいます。こうすることで、萩のいろいろな所を知ってもらう機会になると思ったからです。

この案は、静岡県で実際に行われている政策です。私は、それを知って興味を持ち、画期的な内容に感心しました。

以上のことより、「少子高齢化のない萩」、「様々な人と共に暮らせる萩」、「風土を大切に作る萩」を私は願っています。

○田中市長

和木隆太郎議員から、「少子高齢化のない、様々な人と共に暮らすことができ、風土を大切に作る萩市」の実現に向けて、ご提案をいただきました。和木議員聞こえていますか。はい、わかりました。

改修した空き家の利用と、デジタル通貨を利用する「萩市留学」について

和木隆太郎議員からのご提案にありましたとおり、萩市では人口減少と高齢化が進み、特に、離島や中山間地域等ではコミュニティの存続も危ぶまれています。

一方、都会を離れ、地方で暮らしたいと考えている人が、若い世代を中心に増えており、さらに新型コロナウイルス感染症の影響などにより、萩市への移住者もこれまでと比べ増加しております。

このようなことから、魅力ある地域づくりに向けて、市民の皆さんとともに、悩み、考え、そして、新たな一歩を踏み出すことができるような取組を推進し、「暮らし続けたい」「移り住みたい」と思われるようなまちづくりを目指しております。

和木隆太郎議員からご提案のありました、保育園留学につきましては、現在萩市でも研究しているところです。保育園留学は、1～2週間程度、家族で地域に滞在しながら、子どもが地域の保育園に通える暮らし体験として提供されており、本年9月現在で、全国30市町の保育所が保育園留学の提唱者である、株式会社キッチハイクと提携して実施されております。

また、その他にも、自治体が直接実施されている事例もございます。保育園留学については、保護者や子どもにとってのメリットのほか、地域経済への効果も期待されており、地域振興策の一つとして考えられる仕組みであります。一方で、短期間の滞在となることから、将来的な移住の可能性は考えられるものの、先進地の取組においてなかなか移住にはつながらない状況にあるようです。

また、受入施設の人材の確保や滞在施設の確保など調整すべきことも多いことから、保育園留学の仕組みや効果を引き続き研究していきたいと考えております。

次に、デジタル地域通貨につきましては、限られた地域内で使用ができる地域通貨を、スマートフォンなどのアプリを使って決済を行う仕組みで、地域経済の活性化のほか、地域での関係づくりのツールとしても活用されている事例もあります。

保育園留学での活用を考えると、例えば、地域通貨を使って市内店舗で育児用品を購入してもらったり、市内の子育てサークルやイベントに参加してもらったりするなど、萩での子育て環境を知ってもらうきっかけとなる、有益なご提案であると考えております。

一方、地域通貨の導入にあたっては、多額の費用が必要になるとともに、地域で循環する仕組みづくりも必要なことから、先進自治体の事例も参考にしながら、研究してまいります。

現在、萩市では、移住促進施策に積極的に取り組んでおり、令和4年度には、51世帯79人の方が、萩市へ移住されております。さらなる移住促進のために、今年度、離島地区などを対象とした「空き家賃貸化促進事業補助金」を新たに開始したところです。

この制度は、空き家情報バンクへ登録された若者・子育て世代の賃貸物件の改修費を支援するものでございます。

その他、離島を含む中山間地域へ移住される場合には、市街地へ移住される方より、移住支援策の補助金を増額するなど、特に人口減少が進行している地域へ移住を促し、コミュニティが維持できるよう取り組んでいるところでございます。

こうした取組により、離島や中山間地域への、若い世代の移住を促進するとともに、引き続き、「萩の魅力をいかした移住・定住」を推進してまいります。

○和木議員

ありがとうございました。私もこれから地域の活性化につながる行事などに、これからも参加したいと思いました。本当にありがとうございました。

○長岡議長

以上で、和木議員の質問は終わりました。

ここで、10分間休憩します。

【午前11時00分 休憩】

一般質問5人目：議席番号6番 白上 拓実 議員

○長岡議長

休憩前に引き続き一般質問を続行します。
議席番号6番 白上議員。

○白上議員

萩市立大井小中学校2年、白上拓実です。

僕の考える理想の萩市は、「にぎやかで、安心して暮らせる萩市」です。なぜ、そのように考えたのかというと、安心して暮らせないと萩市から人数が減っていってしまうと考えたからです。なぜ、そのように考えたかかというと、僕の理想にある、「にぎやかで、安心して暮らせる萩市」には、ならないと考えたからです。

今の萩市では、年々、人口が減少しており、2027年には、約39,700人にまで減少することが予想されています。僕の家の方に空き家が多くあり、放火や家が突然くずれたりすると安心して暮らせなくなると思いました。

僕が提案する内容は、「使われていない家をなくし、空いた土地を利用して新しいお店をつくる」です。使われなくなった土地などは、飲食店や、買い物ができる場所にしたいと思いました。お店の中には、子どもから老人の方まで安心して使うことができる、ふれあいルームなどを設けると良いと思いました。ふれあいルームを設けることで、小さい子どもをあずけていても、安心して買い物ができると思えました。

今、萩市は、どんどん人数が減っていますが、何十年先には、今の萩市よりも、より多くの方が住んでいる萩市になるといいなと思いました。

○田中市長

白上拓実議員から、「にぎやかで、安心して暮らせる萩市」の実現に向けて、ご提案をいただきました。

使われていない家をなくし、空いた土地を利用して新しいお店をつくることについて

まず、「空き家」についてであります。萩市では、近年、人口減少や高齢化が進み、空き家が増えております。白上拓実議員がご説明されたとおり、空き家が増加すると、建物の倒壊などによる危険

性に加え、ゴミの不法投棄や、地域の景観が損なわれることも考えられます。また、放火などの犯罪リスクも高まり、安心して暮らすことへの不安にも、つながってまいります。お住まいの地域で、安心して暮らすことができないと、そこに住みたいと思われる方も減少し、白上拓実議員が理想とされる「賑やかな萩市」とは、違った萩市となってしまいます。

このような空き家問題や人口減少の解決策の一つとして、空き家をなくした後の土地を活用し、新しい店舗や飲食店をつくることができず、とのご提案をいただきました。新しい店舗や飲食店ができると、買い物や外食が便利になるなど、利便性の向上だけでなく、地域の活性化につながることを期待できます。

しかし、空き家をなくす、つまり解体して活用できるようにするためには、課題がいくつかあります。まず、空き家を所有している方の理解と協力を得ることが必要となります。空き家は、本来、所有者が適切に、維持や管理を行う必要があります。しかし、修繕や解体を行うにしても、費用が必要となることから、そのままとなっている場合や、所有者や管理者が、わからない場合などもございます。そのため、空き家を解体して、活用するためには、所有している人が、空き家を有効活用するメリットを理解し、協力いただくことが必要となります。

萩市では、空き家情報バンクなどに取り組み、空き家が活用されるよう情報発信を行っておりますが、その他にも、どのような手法が考えられるか、研究してまいりたいと思います。

次に、新しい店舗や飲食店をつくるには、開業したいという思いをもった方が必要となります。新しい店舗をつくり、経営していくことを、起業といいます。起業にあたっては、資金や従業員、経営計画などを準備する必要があります。

萩市では、起業される場合に、必要な資金を低金利で借りることができる融資制度や、起業後に活用できる補助制度などの支援を行っております。新しい店舗を開業したいと考えておられる方に、制度の情報が行き届くよう、今後も幅広く紹介してまいります。

さらに、新たな店舗に、子供から高齢者まで、安心して使うことができる、「ふれあいルーム」をつくり、子供を預けることができれば、その間、安心して買い物をすることができるとのアイデアをいただいております。店舗内に子供が遊べるスペースや、高齢者が集まって、談笑できるスペースを設けることができれば、買い物される方だけでなく、地域の住民が気軽に集まることができ、三代交流も期待できますが、このような施設をつくるには、事業者の理解や経費が必要となります。

ご提案いただいたアイデアは、空き家対策や、人口減少といった

課題に対して効果があり、地域の賑わいをもたらすことが期待できますが、ご説明したとおり、課題をそれぞれ解決していく必要がありますので、萩市としてどのような取り組みができるか、研究してまいります。白上拓実議員が理想とされる、「賑やかで、安心して暮らすことができる萩市」が実現できるよう、これからも取り組んでまいります。

○白上議員

ありがとうございます。緊張しましたが、頑張りました。

○長岡議長

以上で、白上議員の質問は終わりました。

一般質問 6 人目：議席番号 5 番 神川 汐香 議員

○長岡議長

続いて、議席番号 5 番 神川議員。

○神川議員

萩市立大井小中学校 2 年の、神川汐香です。

私の思う理想の萩市は、自然がきれいで、あふれていて、観光客もにぎわっていて、動物にも優しい市です。萩市ならではの自然を活かされていると、市民も落ち着いて過ごせ、観光客も増えると思うし、動物にやさしいと、萩市が他の市や県からも素敵だなと思われるからです。

今、萩市には、野良猫の愛護団体がいくつかあります。ですが、愛護団体だけだと、萩市にいる全員の野良猫に手術やご飯をあげたりすることができません。また、萩市には、パッとみんなが明るくなるような物が少ないので、見るだけで明るくなるようなものを作ると萩市が今よりもさらに明るくなると思います。

なので、萩市に、むつみや福栄にあるようなお花畑の予算よりも、もっとお金をかけて豪華なお花畑を作っていただきたいと思います。そして、萩市全体で今ある愛護団体を金銭面や宣伝などでサポートしていただきたいです。

将来、萩市が今ある良さも活かしつつ、さらに進化し素敵な町になれたらいいなと思います。

○田中市長

神川汐香議員から「自然がきれいであふれ、観光客で賑わい、動

物にも優しい萩市」の実現に向けて、議員の人柄が伝わる、優しい視点から、ご提案をいただきました。

豪華なお花畑を作ることについて

まず、「豪華なお花畑を作ること」についてであります。私も神川汐香議員のお考えにまったく同感で、花は、まちに彩りと明るさをもたらすとともに、人を惹きつける魅力があると思っております。

こうした考えから、中山間地域の明るさと元気の弾みとなるよう、現在、各地域で花を植栽し、交流を促進する取組を行っております。川上地域では「シバザクラ」、田万川地域は「ツツジ」、むつみ地域は「菜の花」と「ひまわり」、須佐地域は「そばの花」、旭地域は「ヒガンバナ」、福栄地域は「インパチェンス」と、住民の皆さんと選んだ花を植栽し、多くの方に見に来ていただき、賑わいのある地域づくりに、繋げていきたいと考えております。

また、この取組は、一か所だけではなく、住民の皆さんの身近な場所へも、拡大させております。例えば、須佐地域では、昨年度、豊ヶ淵入口付近に、弥富地区ゆかりの「そばの花」を咲かせましたが、本年度は、須佐駅へと向かう歩道沿いに「チューリップ」を植え、来年の春には、通行者の方々に、色とりどりの花を楽しんでいただけたらと思っております。

また、佐々並地区の重要伝統的建造物群保存地区では、萩市の花の取組に併せ、住民の皆さんが、ご自宅の軒先にプランターを設置され「ナデシコ」の花を育て始められており、花を咲かせる活動が広がりつつあります。

萩市は「花と緑のまちづくり条例」を定め、住民・事業者・行政が相互に協力し、花と緑が織りなす美しいまちづくりを推進しています。佐々並地区のような活動が広がり、四季を通じて、皆さんの大切に育てた花がまちじゅうに咲く、華やかで明るいまちが、求められている萩市の姿だと思っております。

神川汐香議員のご提案のように、萩市が豪華な花畑をつくる手法もあると思いますが、萩市といたしましては、市民や事業者の皆さんが、ご自身で、花を育て、咲かせる取組を推進してまいりたいと考えております。

花は、見ることで明るさや安らぎを与えてくれますが、自ら大切に育てることで、喜びや幸せも、もたらしてくれます。萩市は、皆さんとともに、花と緑が織りなす美しいまちづくりを推進してまいりますので、神川汐香議員をはじめ、皆さんもご一緒に、まちじゅうに花が咲く、華やかで明るい萩市を目指してまいりましょう。

萩市全体で今ある愛護団体を金銭面や宣伝などでサポートすることについて

続きまして、「動物愛護団体のサポート」についてであります。現在、萩市では、4つの動物愛護団体の皆さんが活動をされております。萩市では、飼い主のいない猫の繁殖を抑え、数を減らしていくことを目的に、捕獲（トラップ〈Trap〉）し、不妊・去勢手術（ニューター〈Neuter〉）を実施し、元の場所に戻す（リターン〈Return〉）に取り組む、TNR活動を、動物愛護団体とともに推進し、行っております。

また、平成29年度に犬猫不妊及び去勢手術費補助金を開始し、平成31年度からは動物愛護団体の皆さんからの要望を受けて、それまでは、山口県萩環境保健所に収容された犬猫に限定されていた支援の対象を、地域に生息する飼い主のいない猫にも広げました。

これらは、新たな飼い主への譲渡の促進を図るとともに、殺処分となる猫の減少を目指すことを目的としており、飼い主のいない猫の一代限りの命を全うする取り組みです。

令和4年度は、不妊・去勢手術への助成24件、TNR活動への助成は14件となっております。合わせて年間38件の猫の不妊・去勢手術への助成を行っているところです。また、飼い主には、責任を持って最後まで飼育していただくように広報萩やホームページ等で引き続き、お知らせを行ってまいります。

今後も、動物愛護団体の皆さんからご意見をいただきながら、共に協力して、人と動物が幸せに暮らすことのできる優しいまちづくりを目指してまいります。

○神川議員

とても素敵な回答をありがとうございました。

○長岡議長

以上で、神川議員の質問は終わりました。

一般質問7人目：議席番号2番 國光 健太 議員

○長岡議長

続いて、議席番号2番 國光議員。

○國光議員

萩東中学校2年、國光健太です。

自分が考える理想の萩市は、楽しくて、いきいきと生活できる萩

市です。このように考えた理由は、楽しいことがあると元気がでていきいきと生活できると思ったからです。

次に、今の萩市の現状についてです。今の萩市は、遊ぶ場所が限られています。公園などが、とても少ないから、公園が家から遠い子どもは、遊ぶ場所がほとんどないと思います。

なので、子どもが元気に遊べるように、地区ごとに1つ公園をつくればよいと思います。具体的に言うと、公園の広さは、広くなくていいから、小さい子どもたちが走り回れる公園を造ればよいと思います。地区にある空き地を使ったり、誰もいない古い家があれば、それを崩して、そこを公園にすればよいと思います。このことが実現すれば、子ども達も楽しくていきいきと生活できる萩市になると思います。

○田中市長

國光健太議員から、「楽しくて、いきいきと生活できる萩市」の実現に向けて、ご提案をいただきました。

地区ごとに1つ公園をつくることについて

国では、こども政策の基本理念の一つに居場所の重要性を掲げております。具体的には、「全てのこどもたちが、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや、社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動や、外遊びの機会に接することができ、自己肯定感などを高め、幸せな状態で成長し、社会で活躍していけるようにすることが重要」としてしております。また、子どもたちをめぐる問題が複雑化する中、学校や家庭以外で、いつでも安心して過ごせる場所をつくる必要があるとして、議論が進められておるところです。

このような中、萩市では、「萩市子ども・子育て支援事業計画」において、「安心して子育てができる環境づくり」の基本目標を掲げております。この目標では、「子どもの遊び場・居場所づくり」を推進することにしており、環境整備の充実に取り組んでおります。子どもが安心して遊び・活動できる場として、中央公園と児童公園、プレーパーク、旧明倫小学校体育館の積極的な活用のほか、児童館や市内にある公共施設等の有効利用を促進しており、多くの子どもの皆さんに利用していただいております。

また、公園・緑地の方針については、「萩市都市計画マスタープラン」において、「シンボルとなる公園づくり」や「バランスの良い身近な公園の整備・充実」に取り組むこととしております。子どもから高齢者まで、あらゆる世代が楽しむことのできる公園として利用促進を図ることや、市民のニーズなどをふまえながら公園の再

配置や新設整備を推進するとともに、空き地を活用したポケットパークや緑地化の促進を図ることにしております。

また、「萩市緑の基本計画」においても、身近なレクリエーションの拠点の充実を掲げており、児童遊園や農村公園、小規模緑地の整備・活用などを進めることにしております。ポケットパーク・オープンスペースの確保や児童遊園の活用、市内にある小中学校の運動場や農山村地域のグラウンドの活用など、様々な空間を活用して子どもの遊び場の充実を図ることにしております。

なお、國光健太議員からご提案のありましたように、全国では空き家を解体して小さな公園にしている事例もございます。現在、萩市においては、規模の大きな総合公園である中央公園や陶芸の村公園のほか、身近な公園である児童遊園なども多く整備されております。児童遊園については、市内に45か所あり、地元町内会の方に維持管理していただきながら、多くの方に利用していただいております。

今後も、これらの指針や計画を基に、子どもの皆さんのご意見も広く伺いながら、「子どもの遊び場・居場所づくり」を推進してまいります。

○國光議員

意見が聞けて良かったです。ありがとうございました。

○長岡議長

以上で、國光議員の質問は終わりました。

一般質問8人目：議席番号10番 刀祢 湊 議員

○長岡議長

続いて、議席番号10番 刀祢議員。

○刀祢議員

萩西中学校2年の刀祢湊です。理想の萩市にするための提案を、今日一日、精一杯頑張っていくので、よろしくお願いします。

僕が思う理想の萩市とは、未来の萩市の子ども達が遊ぶ場所や物などの選択肢が多い萩市です。なぜ、そう考えたかという、今の僕たちが遊ぶとなると、限られた場所や物でしか遊べないので、遊ぶ幅を広くさせたいからです。また、医療を発達させ、がんの早期発見に役立つ萩市です。なぜ、そう考えたかという、今後、今の中高生などが高齢化したときに、一人ひとりに向き合っていく

いなど考えたからです。

今現在、校則などで遊ぶ場所や物が制限されていると感じています。場所と言えば、カラオケやゲームセンター、ボーリングなどの遊戯場です。未来の子ども達まで、この校則が続いてしまうと、友達との思い出を制限してしまい、楽しさが制限されるままになってしまうのではないかと考えます。

がんの早期発見につきましては、萩市のホームページから検診の申し込みが出来る状態です。ホームページまで行かないと見られないので、少し不便ではないかと考えます。

遊ぶための場所や物をつくるために、3年間や5年間程度でビジョンをつくり、子どもたちが怪我なく楽しめるような物をつくって、場所を設けます。ビジョンをつくることで、現実性が求められ、夢のようなものがつぶれることなく作れるのではないかと思います。

がんの早期発見では、国や県と連携して、早期発見のための条例の制定、ホームページの申し込みだけではなく、各家庭に申込用紙を配付して、何歳以上は受けるという義務をつくり、がん注目した社会をつくっていきたいです。

困ることなく生活し、楽しく遊べる場所や物の設置、がんの早期発見のための条例を考え、萩市に笑顔が増えたらいいなと思います。

○田中市長

刀裨湊議員から、「未来の子どもたちが遊ぶ場所や物などの選択肢が多い萩市」、そして、「がんの早期発見に役立てる萩市」の実現に向けて、ご提案をいただきました。

がんの早期発見に役立てる萩市について

私からは、「がんの早期発見」について、お答えいたします。日本人の2人に1人は「がん」を患い、3人に1人が「がん」で亡くなっております。萩市においても、死亡原因の第1位は「がん」です。また、「がん」は進行すると治りにくく、治療における体への負担も大きくなることから「予防」・「早期発見」・「早期治療」が望まれる、注意すべき病気です。

現在、萩市では、様々な病気の発症リスクが高まる40歳以上の方を検診の対象としており、特に節目となる40歳の方には無料検診を実施するなど、定期的ながん検診等の受診を推進しております。また、毎年5月には、検診の日程や種類、申し込み方法等を掲載した「萩市保健ガイド」を、全世帯にお届けしております。

刀裨湊議員より、がん検診の申込用紙を各家庭に配布してはとの、ご提案をいただきました。現在、萩市では、検診の対象となる方へ、個別にハガキでご連絡し、電話でお申込みをいただくことと

しております。また、本年度の集団健診から、電話申込に加え、SNSを通じて、24時間、申し込めるように改善したところでもあります。今後も、より多くの方が検診されるよう、実施方法の工夫に努めてまいります。刀裨湊議員が、おっしゃられるとおり、「がん」に注目する社会をつくっていくことが、生命、健康を守るために、最も重要なことだと考えております。

また、ご提案いただきました条例の制定や、がん検診の受診義務化も、その手段の一つと考えますが、市民一人一人が、「がん」に対する正しい知識を持ち、自ら検診を受診するよう促すことが、重要だと考えております。

こうした考えから、現在萩市では、がん検診の受診を勧める他、予防をテーマとした健康教室などを実施しており、まずは、市民の「がん」に対する理解増進を図り、自ら健康を守る意識を高めていくよう努めてまいります。いつまでも、健康で元気に暮らすことは、多くの人々の願いであります。市民の皆さんが、生涯を通じて、住み慣れた地域で、いつまでも、安心して暮らせる健康づくりに取り組んでまいります。

刀裨湊議員は、「遊び」と「健康」を切り口に、理想の萩市は、「笑顔溢れる萩市」だと、私たちに伝えていただきました。私も、まったく同感でございます。私は、「明るく元気な萩市」と表現しておりますが、刀裨湊議員の想いを、しっかりと受け止め、誰もが元気で、楽しく、いきいきと暮らし、笑顔の溢れるまちを目指してまいります。

なお、「子どもたちが怪我なく楽しめるようなものをつくる」につきましては、池田教育長から答弁させていただきます。

○池田教育長

刀裨湊議員から、「3年から5年間のビジョンをつくり子どもたちが怪我なく楽しめるようなものをつくってはどうか」との、ご提案をいただきました。

萩市のビジョンを3年間や5年間で作り、確実性を求めることについて

まず、「萩市のビジョンについて」であります。萩市では、まちの将来像やまちづくりの方向性を市民の皆さんと共有し、市民と行政が一体となって進めるまちづくりの指針として「萩市基本ビジョン」を策定しており、2027年度までの10年間を計画期間としております。基本ビジョンの中で示している「めざすまちづくり」、いわゆる基本方針の7つのうちの一つに「子育ての幸せが実感できるまちづくり」を掲げており、その具体的な取組の中で「子どもた

ちの笑顔があふれる居場所づくり」を進めているところであります。

また、「萩市子ども・子育て支援事業計画」においては、子どもの遊び場・居場所づくりを推進することを掲げております。遊び場づくりとしては、児童公園やプレーパークの活用、旧明倫小学校体育館の活用に取り組むこととし、居場所づくりとしては、公園などの施設の充実や移動児童館事業に取り組むことを計画しております。

なお、この取組の具体例の一つとして、旧明倫小学校体育館を「あそぼ一舎」として整備し、令和3年1月にオープンしたところであり、1年を通じて多くの子どもの方々に利用いただいております。また、ご質問のありました校則についてです。萩市教育委員会では、各学校の定める校則について、必要かつ合理的な範囲を外れているものは積極的に見直すよう通知しています。

ただ、校則の一つ一つには、そのきまりの意味、目的が存在しています。現在、遊ぶ場所や物が、校則によって制限されているということですが、制限されなければならない理由も必ずそこにあるはずで、中学生が、友達との楽しい思い出づくりの場として、カラオケやゲームセンター等が本当に必要なかどうか、改めて考えてみてください。児童生徒の皆さんが、校則のあり方について考えることはとても大切なことです。自ら考え、議論することができる内容であれば、生徒総会の議題にしたり、学校運営協議会において、保護者や地域の方と話し合ったりしてみてください。そのことが、より良い校則につながっていくと思います。

今後も、子どもの方々のご意見も広く伺いながら、「子どもの遊び場・居場所づくり」を推進してまいります。

○刀祢議員

未来の子どもたちや高齢の方々が困らない萩市をつくっていききたいと思いました。ありがとうございました。

○長岡議長

以上で、刀祢議員の質問は終わりました。

ここで午前中の会議を終了し、午後1時から会議を開きますので、定刻までにご参集願います。それでは休憩します。

【午前11時45分～午後1時 昼休憩】

一般質問 9 人目：議席番号 3 番 中島 有咲 議員

○長岡議長

午前中の会議に引き続き、午後の会議を開きます。

一般質問を続行します。

議席番号 3 番 中島議員。

○中島議員

萩東中学校 2 年の中島有咲です。よろしく申し上げます。

私が思う理想の萩市は、若い人や子育て世代の方々が「住みたい」と思えるまちにすることです。また、それにより、萩市の人口が増え、もっと萩市が活性化していくといいと思っています。現在、萩市は、人口が減少しています。私たちの地元である萩市の未来を守っていくために、若い人や子育て世代の方々が住みやすく、にぎわいのあるまちにしたいです。

たとえば、学校についてです。現在、私が通っている萩東中学校では、普通の教室にはエアコンがついているものの、音楽室や理科室、美術室などの特別教室にはエアコンがついていません。なので、特別教室の授業はとても暑いです。夏場は、熱中症に気を付けながら授業を受けています。

2 つ目は、PR についてです。私はよくテレビを見ますが、一時期に比べて、萩の CM やドラマが少ないように感じています。これらを踏まえたうえで、私は、2 つのアイデアを提案したいと思います。

1 つ目は、学校などの、まだ設備が整っていない施設の整備です。例えば、先ほど紹介したような各学校の整備や老朽化している公共施設などの整備です。学校設備が整っていることで、「住みたい！子育てをしたい！」と思う方がいたらいいと思います。

2 つ目は、萩のマスコットキャラクターを使用した CM や動画の作成です。萩には萩市のマスコットキャラクターである「萩にゃん。」がいます。萩市のよさ、お店、観光地の PR はもちろん、萩市の町並みや、萩に移住した際のメリットを撮影していくといいと思います。

私たちの地元である萩市の人口が減少し、まちのにぎわいなくなってしまうのは、とても悲しいです。萩には良いところや、おいしいものがたくさんあるので、それらを大切にし、未来の萩市の人口が増え、もっとにぎわいのある萩市になっていくことを願っています。

○田中市長

中島有咲議員から、「若い人や子育て世代の方々が、住みたいと思えるまち」の実現に向けて、ご提案をいただきました。

各学校や老朽化した公共施設などの整備について

私からは、公共施設のトイレの整備とCMやSNSを活用した情報発信について、お答えいたします。萩市では、平成22年1月に、公共施設のトイレにかかる整備方針をつくり、トイレの洋式化や、多目的トイレの新設を計画的に進めてまいりました。方針策定後におきましても、誰もが利用しやすいものとなるよう、また、観光客等へのおもてなしの充実を図る観点から、温水洗浄便座の設置や、男女のトイレの使用時間を考慮して、男性小便器数と女性便器数の比率を1対2にするなどの訂正を行ってまいりました。また、直近では、トイレの洋式化を推進するため、公共施設トイレの洋式化にかかる優先順位の考え方等につきましても、整備方針に明記したところ です。

この整備方針に基づき、高齢者をはじめ誰もが利用しやすい施設整備を目指し、公共施設トイレの整備を進めてまいります。今後も、誰もが安心して利用できる施設の整備を行うとともに、若い人や子育て世代の方々が、子育てしやすい、子育てしたいと思うまちとなるよう、取り組んでまいります。

「萩にゃん。」を使用したCMや動画の作成について

次に、CMやSNSを活用した情報発信についてです。萩市では、人口減少課題を最重要課題として捉え、移住・定住を促進するために、様々な施策に取り組んでおります。昨年4月、萩・明倫学舎4号館に開設しました、定住総合相談窓口「はぎポルト - 暮らしの案内所 -」では、観光ガイドブックには掲載されていない、ローカルな暮らしの魅力を市外に広くPRし、萩市への移住を促進する取り組みを行っているところです。

そこで、中島有咲議員ご提案のとおり、若い方や子育て世代の方々に、萩市が、魅力ある、住みよいまちであることをお伝えするために、テレビCMやSNSでの「萩にゃん。」の活用は有効な手段だと考えております。テレビCMにつきましても、企業のCMで、萩市をロケ地として選んでいただくことも重要であると考えており、ロケ地の誘致にも積極的に取り組んでいるところであります。以前にもテレビCMで放送され、YouTube等でも見ることができると大和ハウスのコマーシャルでは、萩の美しいまちなみや観光スポット、萩焼、萩の暮らしなどが全国に放送され、多くの方に萩の魅力を知

ってもらふことができたと思っています。

また、現在、萩市ホームページやインスタグラム、フェイスブック、エックスを活用して、情報発信を行っております。中島有咲議員ご提案の、動画共有アプリ「TikTok（ティックトック）」につきましては、10代から20代の若いユーザーが多いため、若年層に向けた情報発信に有効であると考えています。

しかしながら、ティックトックにおきましては、2020年8月に中国政府側への情報流出の懸念が発覚し、その後、多くの自治体は広報での利用を停止しています。

一方で、ティックトックを活用した情報発信を継続する自治体や、ティックトックを運営する企業の日本法人と連携協定を結ぶ自治体もあり、メリット・デメリットがあると考えています。

いずれにしても、ご提案のとおり、萩市の魅力や萩に移住した際のメリットなど、ターゲット層にあった情報を提供するため、より効果的な手法によるPRに取り組んでまいります。

なお、「学校などの施設整備」につきましては、池田教育長から答弁させていただきます。

○池田教育長

中島有咲議員から「学校などの施設整備」についてご提案をいただきました。

各学校の整備について

萩市は、広大な面積を有し、市役所、学校、病院など、約700を超える公共施設を保有しております。これらの公共施設等の管理の基本方針として、萩市公共施設等の総合的な管理計画を策定し、公共施設の適正管理をすすめているところであります。

萩市内の学校施設においても、建物を長く使用していくための「長寿命化計画」を立てて、破損や故障等が発生する前に維持補修工事を行う「予防保全」を計画的に実施しております。今年度については、学校施設に求められる機能や性能を確保するため、萩東中学校で予防保全工事を行っております。

このほかにも、エアコン設置やトイレの洋式化事業を推進することにより、児童生徒が安全で安心な学校生活を送れるよう環境整備を行っております。

特に、中島有咲議員からご提案いただきました、まだエアコンがついていない教室へのエアコン設置は、萩市PTA連合会からもご要望いただいております。エアコンの設置については、最優先課題として受けとめており、学校での調査を行い、中でも利用頻度の高い特別教室へのエアコン設置に向けて準備を進めております。児童

生徒が一日の大半を過ごす学校施設について、引き続き安心安全に過ごせるよう、環境整備を進めてまいります。

○中島議員

萩市の方々の意見を聞いて良かったです。この経験を学校生活などにも生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

○長岡議長

以上で、中島議員の質問は終わりました。

一般質問 10 人目：議席番号 13 番 中村 暖 議員

○長岡議長

続いて、議席番号 13 番 中村議員。

○中村議員

萩光塩学院中学校 2 年の中村暖です。私は「萩市基本ビジョン」に掲げられている「目指す街づくりの基本方針」のなかにある生活基盤の充実した住みよいまちづくりの観点からカーブミラーについて提案します。

現在、萩市は人口減少や少子高齢化、気候変動による自然災害や異常気象、感染症など様々な課題を抱えています。このような不安が多い環境の中、私は市民全員が安心して安全に幸せに生活できるようなまちにしたいと思っています。市民一人ひとりの笑顔が増えれば、心も穏やかになり、萩全体の雰囲気も明るくなると思います。

そこで私は安全ということに焦点を当てました。安全に生活できるということは、市民の笑顔を守る最善の方法だと思っています。安心安全な町は住みよいまち、住みたくなるようなまちの一步であると思います。

現在、私は自転車通学をしています。毎日 15 分ほどの道のりではありますが、何度か危険を感じたことがあります。こちらは実際に私が通学路として使用している御許町の写真です。このように、カーブミラーが設置されておらず、事故が起きてしまうリスクが高いと思われます。そして、こちらは金谷地区にある団地の駐車場の出入口です。ここは少し坂になっていて、車だけでなく自転車の通行も多いです。坂を下ってスピードが出ている自転車と衝突してしまえば、大きな被害が出てしまうと思います。また、カーブミラーが設置されている場所においても、カーブミラーが汚れており、見えづらいと感じることもあります。

以上のことをふまえ、2点のことを提案します。まず1点目は萩市内にカーブミラーの設置が必要だと思われる場所を調べ、安心安全な環境整備の1つとして、カーブミラーの増設を提案させていただきます。2点目は、現在設置されているカーブミラーの機能をより生かすため、安心して生活ができるように定期的に整備を行うボランティア団体を設立することを提案させていただきます。

先ほども述べましたが、私は萩市民が笑顔になれるような安心安全な街をつくっていきたいと思っています。そのためにも、中学生である私たちが今まで萩をつくってきた方の想いを受け継ぎ、繋げていく必要があると思います。これからの萩は私たちが守り、つなげていきたいです。ご清聴ありがとうございました。

○田中市長

中村暖議員から、「市民全員が笑顔で幸せに生活できるまち」の実現に向けて、ご提案をいただきました。

カーブミラーの増設と清掃ボランティアについて

中村暖議員から最初にお話しがありました、「萩市民全員が笑顔で幸せに生活できるまちにしたい」という思いを伺い、とても感動いたしました。

私が常日頃から申し上げている「明るく元気な萩」と同じ思いであることがわかり、大変嬉しく感じたところであります。

さて、ご提案のカーブミラーの増設と清掃ボランティアについてであります。萩市は、中村暖議員もご承知のとおり、城下町として発展してきた歴史的な町であります。昔ながらの景観や歴史的な町並みが多く残っており、日本のみならず海外からも多くの観光客が訪れられています。関ヶ原の戦いに敗れた毛利輝元が、萩に築城する際に、碁盤目状に町割りが行われました。現在も、その当時の町割りが多く残っており、道路につきましても、約9割が拡幅されないうまま残っております。

そのような中で、交差点やカーブなど、通行するにあたって視界が悪い箇所もあろうかと思われれます。そのような危険な状況を解決するためには、中村暖議員ご提案のカーブミラーを設置することは、解決策の1つであります。また、現場の状況によりカーブミラーの設置が困難な場合には「停止線」や「止まれ」などの路面への表示が有効な場合もございます。これまでもカーブミラーの設置につきましては、市民の皆様から多くの要望をいただいております。要望をいただく度に、現地を確認し、現場状況や必要性を確認したうえで、設置ができるかどうかを検討し、対応している状況であります。

また、道路にはそれぞれ管理者がおりますので、カーブミラーの

設置につきましては、国道であれば国が、県道であれば山口県が、市道であれば萩市がそれぞれ対応し、私道などであればその所有者などが対応することとなります。そのため、市道に関するカーブミラーの設置につきましては、萩市の土木課までご相談をいただければと考えております。また、県道につきましても、萩市から県へお伝えすることができますので、市の土木課へご相談ください。

次に、カーブミラーを定期的に清掃する清掃ボランティア団体の設置についてであります。カーブミラーの清掃につきましては、道路上で作業を行う必要があります、事故が発生する危険性があります。

そのため、ボランティアの方に、清掃を行っていただくことは、中々、難しいことであると考えております。カーブミラーの管理は各道路管理者が適切に維持管理を行う必要がございますので、お気付きの点などございましたら、まずは市の土木課へご連絡をお願いします。

貴重なご意見をありがとうございました。これからも引き続き、市民の皆様の安全で安心な生活を守るためにカーブミラーの設置や路面表示などを検討し、道路の適切な維持管理に努めてまいります。最初に述べましたとおり、中村暖議員の「萩を、全員が笑って過ごせるようなまちにしていきたい」という思いは、私の思いと全く同じであります。これからも明るく元気な萩をつくるために、ともに頑張ってみましょう。

○中村議員

このような提案を聞いてくださり、ありがとうございました。私は萩にこれからも住み続けたいと思っているので、今の私にできることを精いっぱい努力していきたいと思っております。本日はありがとうございました。

○長岡議長

以上で、中村議員の質問は終わりました。

一般質問 11 人目：議席番号 11 番 松嶋 波 議員

○長岡議長

次に、議席番号 11 番 松嶋議員。

○松嶋議員

萩西中学校 2 年、松嶋波です。

私が考えた理想の萩市は、安心安全で、誰でも住みやすい町です。

なぜなら、障がいを持っている人は、持っていない人より「安全」を気にすると思うからです。だからこそ、安心安全な町にすることが重要だと思います。

この間、私が下校をしている時に、白杖を持った人に出会いました。そこは、点字ブロックがなく、その人は、道の真ん中あたりを通っていました。そこへ車が来て、クラクションを鳴らして、その人は、とまどっていました。ほかに、住みやすいという面で萩市には、子どもがゆったり過ごせる場所が少ないように感じます。

そこで、私は二つのことを考えました。一つ目は、少しでもいろんな場所に点字ブロックを設置することです。道につけることも大切ですが、施設内につけるのも大切だと思います。もし、店や道に白杖を持った人がいて、困っていたら話しかける人はいるでしょうか。私は断られたら悲しいので、話しかけません。だから、そもそも、そういう状況を作らないために点字ブロックを設置することを提案します。

二つ目は、学生向けのカフェをやることです。図書館みたいに静かすぎず、児童館みたいに、わちゃわちゃし過ぎるのではなく、勉強や少しのおしゃべりができる場所を作ることで、もっといろんな人が利用してくれると思います。だから、学生向けのカフェをやることを提案します。

安心安全な町をつくることで、誰でも住みやすくなり、たくさんの方が利用する萩市になれば良いなと思います。

○田中市長

松嶋波議員から、「安心安全で誰でも住みやすいまち」の実現に向けて、ご提案をいただきました。

少しでもいろんな場所に点字ブロックを設置することについて

私からは、「様々な場所に、点字ブロックを設置してはどうか」についてお答えいたします。点字ブロックは、正式名称を「視覚障がい者 誘導用ブロック」と呼びます。視覚に障がいがある方を、日常生活において利用される交通機関、官公庁施設、福祉施設などへ、安全かつ円滑に誘導するための地面や床に設置されているブロックのことです。

松嶋波議員から、様々な場所に点字ブロックをとのご提案をいただきましたが、点字ブロックにより、目的地へ向かう複数のルートが存在すると、誘導性が損なわれ、視覚に障がいがある方が円滑に目的地にたどり着けない可能性も考えられます。

そのため、点字ブロックは、全ての歩道に設置するのではなく、最短距離で目的地に辿りつける、極力1つのルートに設置すること

が望ましいとされております。また、施設内の誘導については、例えば萩市役所本庁舎や総合福祉センターでは、出入口や案内窓口まで、点字ブロックにより誘導し、その後は係員が目的をお伺いし、ご案内する仕組みとなっております。また、視覚に障がいがある方が不慣れな場所へ外出される際には、福祉施設等のヘルパーが付き添い、移動の支援を行っています。このように環境整備やサービス提供により、視覚に障がいのある方の社会生活を支援しているところではあります。

松嶋波議員は、ご自身の体験をもとに、安全安心で、誰もが住み良いまちが理想の萩市だと私たちに伝えていただきました。私も、松嶋波議員のお考えに同感でございます。萩市では、全ての人にやさしい社会の実現のため、障がいのある方も、高齢者の方も、全ての方が利用しやすい「ユニバーサルデザイン」に配慮したまちづくりに取り組んでいるところであります。

今後も、障がいのある方のご意見も伺いながら、誰もが住み良いまちづくりに取り組んでまいります。なお、「学生向けのカフェをつくること」につきましては、池田教育長から答弁させていただきます。

○池田教育長

松嶋波議員から、子どもたちがゆったり過ごせる場所が少ないということから、「学生向けのカフェ」をつくることについて、ご提案をいただきました。

学生向けのカフェをつくることについて

現在、学校や家庭以外で、子どもの遊び場や居場所として児童館、公民館、図書館、スポーツ少年団、公園、プレーパークなどがあります。このほかにも、子どもも大人も安心して過ごすことができるように、食事を提供する子ども食堂、学習支援、相談事業といった「子どもの居場所づくり」に取り組む民間の団体があります。萩市では、この団体に対して、安定的・継続的に事業が実施できるよう支援を行っているところではあります。

松嶋波議員からご提案いただきました、「学生向けのカフェ」とは少し違うかもしれませんが、東京都西東京市では、市内の公立中学校内で「子ども放課後カフェ」が、地域の大人たちにより定期的で開催されていると聞いております。ここでは、子どもたちは無料で提供される飲み物を飲みながら、トランプなどのゲームをしたりおしゃべりをしたり、自由に時間を過ごすことができるようになっています。

このような子どもの居場所については、安心、安全が確保される

ことが、とても重要です。今後、子どもや若者自身の声を聴き、子どもや若者の視点にたった居場所を確保することも必要であることから、学校へも情報提供してまいりたいと考えております。

萩市教育委員会としましては、こどもや若者が、それぞれのニーズに応じた居場所を持つことにより、様々な学びや、社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動や外遊びを通して、自己肯定感などを高め、幸せな状態で成長し、社会で活躍していけるようになることが重要と考えております。

引き続き、みなさんの意見を伺いながら、安心・安全で誰もが住みやすいまち、住みたくなるまちになるよう努めてまいります。

○松嶋議員

私が知らなかった取り組みなどが知れて、理想の萩市についてもっと深く考えたいなと思いました。ありがとうございました。

○長岡議長

以上で、松嶋議員の質問は終わりました。

一般質問 12 人目：議席番号 12 番 山野井 彩純 議員

○長岡議長

次に、議席番号 12 番 山野井議員。

○山野井議員

萩西中学校 2 年の山野井彩純です。私のアイデアがよく伝わるように頑張ります。

私が考えた理想の萩市は、観光業を今よりも盛んにすることです。今の萩市は、歴史を中心に観光業を行っているので、中々、若い人の観光客が少ないと思います。そこで、ターゲット層を広げて、観光業をもっと盛んにしたいです。現状は、先ほども言った通り、歴史にスポットライトを当てています。しかし、我々、若者世代は、歴史に興味がある人が少ないと感じています。

そこで、既存の観光名所と若者向けの要素を組み合わせ、新たな観光スポットをつくることを提案します。

例として、京都に八坂の塔という塔があります。これだけでしたら、歴史的な名所ですが、塔の近くに、いちごアメ屋さんがあり、そのいちごアメと塔と一緒に撮って SNS にあげるという、いわゆる映えスポットがあります。萩もそのように歴史的要素に新たな要素を加えることで、ターゲット層がより広がり、集客につながる

と考えました。また、SNSでスポットの紹介や宣伝をすることで、より認知度が向上すると思います。

ターゲット層を広げ、既存の観光名所と若者向けの要素を組み合わせた、新たな観光スポットをつくることを提案します。

○田中市長

山野井彩純議員から、「観光業が今よりも盛んな萩市」の実現に向けて、ご提案をいただきました。

既存の観光名所と若者向けの要素を組み合わせた新たな観光スポットをつくることについて

まず、「SNSでの発信」についてであります。総務省が発表した「令和4年度通信利用動向調査」では、インターネット利用者の割合は13歳から59歳の各年齢層で90%を超えています。SNSを利用している方の割合は平均でも80.0%と多くの方がSNSを利用されており、毎年増加傾向にあります。年代別にみると13歳から19歳が92.0%と最も多く、80歳以上でも53.8%の方が利用されています。

こういったことから、萩市としてもSNSによる情報発信の重要性につきましては、十分認識しており、より多くの方から検索されるような仕組みづくりに努めているところであります。例えば、着物ウィーク等での写真コンテストやプレゼント企画などを行う際には、SNSをフォローしてもらうことを応募条件にしたり、椿まつりなどで写真映えするスポットを設置し、インスタグラムに投稿してもらう際には「#(ハッシュタグ)」を付けることをお願いするなど、SNSの特性を活かした情報発信を心がけております。その結果、萩市観光課及び萩市観光協会のSNSのフォロワー数も少しずつですが増加しています。令和5年10月現在で、約8,500人の方にフォローいただいております。

今回ご提案の、新たな映えスポットの設定についてです。観光にお越しになられた方が映えスポットをSNSに投稿することで、情報が拡散される。そして、この拡散された投稿がきっかけとなり、新たに興味を持たれる方が、萩に来て写真を撮る。それをまたSNSに投稿することで、さらに情報が拡散される、といった、いわゆる「バズる」投稿は新たな観光客獲得のために非常に有効な手段であると認識しております。

観光客自ら自発的な情報発信をおこなっていただくためには、新たに写真映えするスポットをつくることも一つの方法ではございますが、山野井彩純議員ご提案のとおり、今ある観光スポットも、見せ方ひとつで、SNSに投稿したくなるような新たな映えスポット

になるものと考えております。スマートフォンひとつで、きれいな写真が撮影でき、撮っても楽しい、友達にも自慢できる、といったことも旅の目的のひとつになっております。私も、萩ファンのひとりとして、様々な出来事や地域のイベント、観光スポットなどを発信しておりますが、SNSの発信は、皆さんのような若い世代の方のほうが得意だと考えております。

山野井彩純議員をはじめ、子ども議員の皆さんにおかれましても、ご友人と一緒に、萩市の新たな映えスポットを探して、SNSに投稿していただきたいと思っております。皆さんの斬新なアイデアが、話題のスポットとなりますことを期待しております。

萩市としても引き続き、一人でも多くの方に萩へお越しただけるよう、自然やまちなみなどの映えスポットを、効果的にプロモーションしていくとともに、さらなる情報発信に努めてまいります。

○山野井議員

自ら情報を発信していくことも大事だと思うので、今の萩市をより活性化できるように、私自身も頑張りたいなと思いました。ありがとうございました。

○長岡議長

以上で、山野井議員の質問は終わりました。
ここで、10分間休憩します。

【午前13時39分 休憩】

一般質問 13 人目：議席番号 4 番 山本 真菜 議員

○長岡議長

休憩前に引き続き一般質問を続行します。
次に、議席番号 4 番 山本議員。

○山本議員

萩東中学校から来ました山本真菜です。よろしく申し上げます。

私が考える理想の萩市は、萩の魅力であるたくさんの豊かな自然をきれいに保てているところです。私は、萩の山や海の風景がとても好きで、これからもこのきれいな景色を眺めていたい、そんな人を増やしたいと思い考えました。

最近、学校の登下校中に、タバコの吸い殻や空き缶などを見かけることが多くなりました。また、地域の河川一斉清掃に参加したとき、人数がたくさん集まっているとはいえない状況で、清掃できる範囲には限りがあり、「ゴミがなくなった！」という実感は、あまりありませんでした。

この経験から、萩全体でゴミ拾い大会を開き、集めた量を競って、上位の人に賞品である萩の特産品をプレゼントすることを提案します。萩全体で開催することで、広い範囲をきれいにすることができますと思います。また、さらに賞品をつけることで参加してくれる人が増えたり、みんなのやる気が上がったりすると思います。また、賞品を萩の特産品にすることで、萩がきれいになるだけでなく、たくさんの人に萩の魅力をもっと知ってもらえると考えています。

私は、自然豊かな萩が大好きです。この豊かな自然を次の世代に残していくためには、私たち萩市民一人ひとりが意識を持つことも大切だと思います。私自身もボランティアなどに積極的に参加して、この町の魅力を守って残していきたいです。

○田中市長

山本真菜議員から、「たくさんの豊かな自然をきれいに保てている萩市」の実現に向けてご提案をいただきました。

萩全体でゴミ拾い大会を開催することについて

河川海岸一斉清掃の参加人数や清掃範囲に限りがあり、きれいになったという実感がないとのご指摘であります。

ここで、一句、川柳を朗唱いたします。「半世紀 市民が繋ぐ 河川美化」「半世紀 市民が繋ぐ 河川美化」。これは、昭和48年から続いている「河川海岸一斉清掃」が今年でちょうど50年を迎えることを記念して、市民から寄せられたものであります。

この清掃活動は、皆さんのお祖父さん・お祖母さん以上の世代から始まり、親御さんの世代も参加し、現在も3世代総参加で実施されるなど、その歴史の長さと規模において、まさに日本一のボランティア清掃活動であると言えます。

しかしながら、山本真菜議員ご指摘の通り、近年少子高齢化による人口減少や猛暑などの影響により、各地域において清掃範囲の縮小や参加人数が減少する傾向にあります。また、最近たばこの吸い殻や空き缶などのポイ捨てが多くなっていると、ご指摘も受けているところ です。

萩市では平成6年3月に、「美しいまち・萩」を実現するため市民有志が立ち上がり、「日本一ごみのないまち・萩」を宣言いたしました。地域美化推進制度である「おまかせいど」には、51団体と112人が登録され、多くの団体・市民のみなさんが市内各地で美化活動を実践されております。

一方で、ご指摘にありますように、最近たばこの吸い殻や空き缶のポイ捨てを数多く最近多く見かけるようになり、非常に残念な思いであります。山本真菜議員は萩の魅力であるたくさんの豊かな自然をきれいに保ちたい、これからも萩のきれいな景色をながめたい、また、そんな人を増やしたいとの思いから萩の街をきれいに保つための課題解決に向けた取り組みのご提案をいただきました。具体的には、萩市全体でごみ拾い大会を開催し、集めたごみの量を競い、上位の方に商品をプレゼントすることで参加者を増やし、広い範囲をきれいにする。また、その商品を萩の特産品とすることで、もっと多くの方に萩の魅力を知っていただくことができるというご意見であります。

山本真菜議員ご提案の通り、広い範囲をきれいにするためには多くの方の清掃活動への参加が必要となります。ごみ拾い大会を開催して商品をプレゼントするという案は参加する皆さんのやる気が上がったり、親しみながら清掃活動を行うことができ、それが多くの方の参加を促すといった効果が期待できる良い仕組みであると思えます。また、商品を萩の特産品とすることで萩の魅力をもっと多くの方に知っていただける良い機会となり、まさに一石二鳥、三鳥にもなる考えです。

一方で人口減少が進む中、広大な面積を有する萩市において、まちをきれいに保つためにはごみを拾うだけではなく、ごみのポイ捨てをさせないといった視点も重要であり、私たちひとりひとりの環

境美化に対する意識を高め、共有していくことが大切であると思います。私も山本真菜議員同様、山や海など自然豊かな景色が大好きであります。ご提案いただいた案を含め、どのような手法が効果的であるかを考えてみたいと思います。

萩の豊かな自然ときれいなまちを守っていくことは市民みんなの願いであります。山本真菜議員が将来大人になり、その次の世代にも自然豊かな萩を引き継いでいけるよう、一層の取り組みを進めてまいります。

○山本議員

ご回答ありがとうございました。萩をきれいに保つためにも、自分にできることをしていきたいです。ありがとうございました。

○長岡議長

以上で、山本議員の質問は終わりました。

一般質問 14 人目：議席番号 7 番 田中 優成 議員

○長岡議長

続いて、議席番号 7 番 田中議員。

○田中議員

萩市立大井小中学校中学部 2 年生、田中優成です。

僕の理想の萩市は、市民の一人ひとりが笑いあえる萩市になれば良いなと思いました。なぜなら、一人ひとりが笑いあえば、町全体の雰囲気明るくなって、楽しい気分になると思ったからです。

今現在の問題は、萩市民の人口が減少して、空き家ができて、萩市が寂しいと感じたので、僕のアイデアで人口の減少と空き家の問題を解決できればいいなと思ったので、アイデアを紹介します。

萩市の空き家を使って、萩市特性のレストランをつくり、萩市の食材を沢山使った料理を作れば、興味を持ってもらい、食べに来る人が多いと思ったからです。そして、食べに来た人に萩市の良さに気づいてもらえたら嬉しいと思いました。

僕は、萩市と他の県が協力して、萩市がより良くなる事をうれしく思います。

○田中市長

田中優成議員から「市民の一人ひとりが笑いあえる萩市」の実現に向けて、ご提案をいただきました。

空き家を使って萩市特性のレストランをつくり、萩市の食材を使った料理を作ることについて

まず、萩産食材についてであります。萩市は、豊富な農林水産資源や自然環境、また、歴史や文化資源に富む観光地として、全国的にも認知度が高く、一定のブランドイメージが定着しています。

萩市では、この誇るべき萩ブランドを産業振興に生かすため、農協や漁協、生産者の皆様と協力し、「萩たまげなす」や「萩の瀬つきアジ」、とりわけ大井地区では「大井の玉葱」や「萩・大井の甘夏」など、萩産食材のブランド化に取り組んでいるところです。最近の例では、今年3月、桜の開花時期に最盛期を迎えるマフグに「桜ふぐ」と愛称をつけ、地酒や旬の食材に合う、新たなメニューの開発を行い、付加価値を向上させ、利益につなげる仕組みを構築しております。

次に、空き家を活用した飲食店についてであります。近年、萩市におきましても全国の例にもれず空き家の数が増え続けています。今後、建物の倒壊などによる危険性に加え、防災、防犯、公衆衛生、景観への影響などの問題が一層深刻化することが懸念されており、差し迫った課題となっています。

この度、田中優成議員から、これまで培ってきた萩ブランドに空き家対策を組み合わせることにより、新たな観光資源として生まれ変わらせるためのご提案をいただきました。空き家を活用し、レストランを造るというアイデアは大変魅力的であり、また、地域を元気にするため、地域で生産されたものをその地域で消費する「地産・地消」の取組を進めることは非常に大切なことだと考えております。

近年、萩市におきましても、民間事業者が空き家や古民家をおしゃれなレストランやカフェなどに活用し、萩産食材で作った料理を提供する飲食店が見られるようになりました。店舗の外観や内装を、地域性を活かした「萩らしい」イメージで統一することで、温かみのあるサービスと相まって、大変、人気を集めております。

萩市では、これらの取組を進めるため、インターネット上に食のホームページ「萩G o c h i (ごち) はぎのごちそう」を立ち上げ、萩産食材の紹介をはじめ、その食材を食べることができる飲食店などを広くPRしております。また、萩産食材の生産者や飲食店のオーナーを取材して、創業の由来やお店のこだわり、新たに始めようとする方へのアドバイスなどの情報発信も行っており、とりわけ空き家を利用した飲食店の特集は、大変人気があります。

このように、萩産食材をきっかけとして、萩市のイメージや資源を積極的に発信し、萩ブランドイメージを向上させることは、まちや商品の価値を高め、地域産業の底上げにつながると考えています。

引き続き、全国的に高い知名度を誇る萩ブランドを産業振興に最大限に生かしていくことにより、多くの方に萩市を訪れていただき、萩市の良さに気付いてもらえるよう取り組んでまいります。

最後に、私は公約として「五つのよし」を掲げ、「明るく元気な萩市」をつくることを目指しており、市長就任以来、その実現に向けて取り組んでいるところであります。そのためには、まず地域が元気になることが重要であると、常日頃から様々な場面を通じてお伝えしております。市内外の関係団体などとも連携して、ここまで申し上げました取組を着実に実施することにより、田中優成議員ご提案の「市民の一人ひとりが笑いあえる萩市」の実現にこれからも取り組んでまいります。

○田中議員

萩市に少しでも貢献できればうれしいです。

○長岡議長

以上で、田中議員の質問は終わりました。

一般質問 15 人目：議席番号 14 番 吉井 八重 議員

○長岡議長

続いて、議席番号 14 番 吉井議員。

○吉井議員

萩光塩学院中学校 2 年、吉井八重です。

私は、魅力ある歴史や文化をいかし、にぎわっている観光地域を目指すためには、観光客が足をのぼす場所を増やした方が良いと思います。松陰神社や城下町などには観光客は来ているけれど、観光客が来る場所は限られているように感じます。城下町は城を中心に発展してきたので、城があった方が良いと思うし、にぎわい、観光客も増えると思います。

前に萩城をモデルにした大分の中津城を見に行きました。中津城や、どこの城も観光客や団体バスも来ており、にぎわい、城関連グッズも売れていました。

そこで、萩城を建城することによって仕事や人も増え、城が出来たら観光客も増えてにぎわい、萩の活性化の一つになると思います。

観光客が増えて魅力ある歴史や文化をいかし、にぎわっている観光地として、もっと萩市の魅力が伝わって欲しいと思っています。

○田中市長

吉井八重議員から、「魅力ある歴史や文化をいかし、賑わっている観光地域をめざす」ために、「萩城を復元してはどうだろうか」とのご提案をいただきました。

萩城の建城について

萩城跡は、毛利輝元公が築いた萩城の石垣と堀の一部が、当時の姿をとどめており、国の史跡に指定されております。また、萩城跡と、堀内地区、菊屋家や久保田家のある城下町の一部は、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産にもなっております。

吉井八重議員の、萩城の復元が、萩市の活性化の一つになるというお考えは、私も全く同意見でございます。大賛成であります。

しかしながら、天守や矢倉などの建物が解体され、石垣と堀だけが残る現在の萩城跡の姿は、明治という新しい時代に移った歴史を物語るものであり、このことが世界遺産として重要な要素となっております。このため、世界遺産の専門家から現在の状態を保全するよう厳しく制約を受けている状況であります。

こうしたことから、日本100名城の一つとして選定されている萩城の当時の姿を楽しんでいただくため、スマートフォンやタブレット端末を通して、城跡の石垣をご覧いただくと、目の前に萩城の天守閣があるかのような映像をご覧いただけるようにしております。

また、お話しがありました大分県の中津城でのお城関係のグッズ販売についてご紹介がありました。吉井八重議員のおっしゃるとおり、中津城の天守は、かつての萩城の天守をモデルとして、昭和の時代に再建されたものであります。萩城跡でも、お城関係のグッズといたしまして、城主 毛利家の家紋や城の名前、城を訪れた日時を印刷した、萩城跡御城印という記念品を販売しております。歴史愛好家はもとより、観光客や市民の皆様大変喜ばれております。

萩城跡は、春には600本のソメイヨシノが咲き誇る桜の名所でもあり、観光客はもとより、憩いの場として多くの市民の皆様が萩城跡を訪れております。また、白砂青松の景観が美しい菊ヶ浜、自然豊かな石彫公園や、萩八景遊覧船の乗り場と隣接しているなど、自然と歴史が織りなす魅力的な観光資源となっております。このように、萩市では、萩城跡を活用し、様々な観光振興を図っているところでございます。

吉井議員も私と同じく、お城が大好きとお見受けしました。ぜひ、この萩城跡の魅力を、皆さんにお伝えいただきますよう、お願いをいたします。

○吉井議員

発表を聞いていただきありがとうございました。発表した内容すべてを取り入れるのは難しいと思いますが、少しでも萩市の発展につながればいいなと思います。

○長岡議長

以上で、吉井議員の質問は終わりました。

以上で一般質問を終了いたしました。これをもちまして、「萩市子ども議会」を閉会いたします。

○石飛副議長

一同、起立。礼、着席。

【午後 14 時 11 分 「萩市子ども議会」 閉会】

【午後 14 時 12 分 回答書受渡】

○鬼村委員長

長岡議長ありがとうございました。

さて、萩市子ども議会では、市内の中学生を対象に 163 名の子どもたちから、“理想の萩市”とするためのアイデアを応募いただきました。そして、本日、子ども議員として発表いただいたアイデア以外に対しても、萩市から回答書をご用意いただきました。これより、田中市長から子ども議員の代表者へ回答書の受け渡しを行いたいと思います。田中市長と子ども議員を代表し、議席番号 10 番 刀 祢 湊 議員は、前方へお願いします。

○田中市長

萩市子ども議会の回答書をお渡しします。

○刀祢議員

ありがとうございました。

○鬼村委員長

田中市長、刀祢議員ありがとうございました。お二人は席へお戻りください。只今、受け取られた回答書及び応募いただいたアイデアは、萩市子ども議会の記録動画とともに、萩青年会議所のホームページで公開し、応募いただいた方たちへお届けしたいと思います。

○鬼村委員長

それでは本日の「萩市子ども議会」について、田中市長と池田教育長より講評をいただきます。

○田中市長

子ども議員の皆さんには、大変お疲れさまでした。議場での発表はいかがだったでしょうか。自分の思うとおりに行きましたか。緊張もあったろうと思いますが、こちらも緊張しながら、させていただいたところがございます。一番感心したのは皆さんの真っすぐな眼差し、ふるさと萩市がより良いものにしたらという、熱い思いを感じることができました。大変すばらしい子ども議会だと思っております。また、子ども議員の皆さんをはじめ、市民の方々と力を合わせ、萩市の未来を切り開くまちづくりに取り組むことを、改めて決意をしたところでもあります。

さて、本日の子ども議会では、皆さんお一人おひとりが市民の代表という意識の下、理想の萩市の実現に向け、真剣に考えたアイデアを発表していただきました。地域の交流や学校のこと、道路や空き家など、日々の生活の中で感じられた話題もありました。また、保育留学やお城など、他市の優れた事例を参考にされたものもありました。いずれの提案も萩市にとってはとても重要な課題であり、皆さんの豊かな発想力に驚かされるとともに、このような提案をしていただいた皆さんを誇らしく思っています。

そして何より、今日を迎えるにあたり、市政のことを学習し、萩市に何が求められているのか、何があればもっとたくさんの方が萩市に来られるのか、ということを生懸命考えていただいたことが私たちとしみしても、大きな財産でございます。これから先も市政に関心を持ち続けていただき、将来皆さんがより良い萩市を築くために活躍されることを心待ちにしているところです。私も本日皆さんからいただいたご意見をしっかりと胸に刻み、明るく元気な萩市の実現に向けて取り組むことをお約束し、講評といたします。

本日は、子ども議員の皆さん大変ありがとうございました。また、傍聴席の皆さん、ありがとうございました。

○池田教育長

萩市子ども議員の皆さん、大変お疲れさまでした。本日の子ども議会に向けて、先ほど事務局からございましたけど、今回は萩市の中学2年生、学校によっては1年生、3年生もあったと思いますけど、163名がご提案をいただいたということ、2人に1人がより

よい萩市をつくっていくための提案をしてくれたこと、大変うれしく思っています。

そしてその中から最終的に、本日は15名の議員さんとそれから5名の見学者の方がここに集まれたわけでございます。提案された議員の皆さん、いかがでしたか。先ほど市長からもありましたけど、緊張されましたか。でもですね、私が聞いておりましたら、大変堂々としておりました、私はそういう姿を見て大変感動いたしました。ありがとうございました。

今から3つのことをお話します。1つはですね、皆さんの提案を聞いて本当にうれしいことなんですけど、皆さんはこの萩のまちを愛し、本当に誇りを持っているんだなど。そして、萩の未来のことを一生懸命考えてくれているんだなどということ。これは大きな喜びです。本当にありがとうございました。市長さんも申されましたが、皆さんの提案をですね、できるだけ今から市政の方へですね、行政の方で反映させていきたいなという風に思っています。

2点目、今日はですね、皆さんは提案書に基づいて発表されましたが、これを聞いて大事だと思ったことを話します。1つは地域や社会をよりよくしていくためにどうしたらいいのか。何ができるのかということ、一生懸命考えることが大事だということです。そして、皆さんが観光や自然、教育、いろんな視点をもってお話しされましたが、関心のあることをしっかり整理して、自分なりの考えを持つということ、これが大事だということです。

そして、皆さんの提案の中でもありましたが、今の自分としてできることは何なのか、これを考えて行動する。

この3つがとても大事なことではないかと思いました。今日は皆さん議場での経験を、やはり今後の学校生活、あるいは地域の行事に参加したり、いろんなところで、さらにさらに高めていただき、視野をもっともっと広げていただきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

終わりになりますが、本日のこういう機会を与えていただいた一般社団法人 萩青年会議所の小林理事長をはじめとした関係の皆様、心から感謝申し上げますとともに、皆さん一人ひとりが今後も志を高く持って、自分の夢の実現に向けてさらにさらに頑張ってください、心から祈念いたしまして講評とさせていただきます。本当に今日はお疲れさまでした。

○鬼村委員長

それでは、最後に主催者である一般社団法人 萩青年会議所を代表して、小林理事長より謝辞を述べさせていただきます。小林理事長、宜しくお願いします。

○小林理事長

それでは、本日の主催者である一般社団法人 萩青年会議所、今年度理事長を務めております小林の方から最後、ご挨拶させていただきます。

まずは子ども議員の皆さん、そして見学者の皆さん、朝早くから長時間お疲れさまでした。ありがとうございます。先ほど市長、ならびに教育長からご講評をいただきました。何分萩市において初めて子ども議会開催ということで、なかなか不手際もあったかと思えます。また、慣れない運営もございました。それについてはお詫び申し上げます。

子ども議員の皆さんがこちらで発表されるときに、本当に想像以上に、先ほど話にもありましたが、堂々として自身の意見を述べられていました。本当に中身も立派で、そして相手に伝えようという気持ちが伝わってきました。本日冒頭の時に至誠の話をしたかと思えます。「誠の心を尽くして当たれば動かないことはない」。今日の皆さんのご提案はすぐにではないかもしれませんが、必ずや萩市の市政やまちづくりにつながっていくと強く思っています。

その中で、皆さんにもぜひ、今回をきっかけに例えば自宅に届く市報とか、市のイベント行事に少しでも興味を持っていただいて、自分が提案したことが、もしくは一緒に同僚議員が提案したことがこういう風に形になっているな、そういう風に興味関心をもって街づくりに引き続き、関心を寄せていただければ幸いです。

そして、子ども議会をするにあたって、知らないことも多く、事前学習会でも本当に皆さん一生懸命調べられていたと思えます。その中で、自分のまちや地域をこうしていきたい、もしくはこういう風な理想の萩市を目指していきたい。そういった志が芽生えた方がいらっしゃるかもしれません。ぜひ、その志を未来へとつないでいただければと思います。

そして最後に、傍聴席にお越しの皆様、また、関係各位の冒頭にも申し上げましたが、学校関係者の皆様、保護者の皆様、PTAの方にも本当にご協力いただきましたこと、感謝申し上げます。主催者からのあいさつにかえさせていただきます。本日は皆さま本当にありがとうございました。

○鬼村委員長

小林理事長、ありがとうございました。

以上で、「萩市子ども議会」を終了いたします。長時間にわたり、皆さまご協力いただきありがとうございました。

【午後 14時33分 「萩市子ども議会」 終了】